

W杯の観客を市民の笑顔で迎えるため、ポスターの撮影が進む。神戸ウイングスタジアム



顔があふれる。

企画をプロデュースするのは、グラフィックデザイナーの谷孝次さん(五〇)＝東京都。東京原宿で笑顔を撮影し「Merry」として発表している。メリーは「楽しい」「幸福」の意味という。

一月中旬から撮影を始め、既に百七十人分が終わった。三月中旬に一般公募の三十人を撮影する。

## 街中包み込む あふれる笑顔

### 神戸

名づけて「Merry in KOBE(メリーイン神戸)2002」。期間中は市内の各ターミナルで飾る。

多数の犠牲者を出した阪神大震災から七年。全国、全世界から大きな支援を受けた神戸市は、復興へ向けて歩むまちのエネルギーや感謝の気持ちなどを込めて、市民の笑顔で表す趣向だ。

同市が選んだ市民百七十人と、一般公募の三十人がモデルだ。洋菓子職人、船長など神戸らしい職業は「ナイシエリアから来る人は、同じ国の人だから、をやるロシア、チュニジア、スウェーデン、ナイシニアの出身者らの笑話を話していた。